

(19)日本国特許庁 (J-P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-231701

(P2001-231701A)

(43)公開日 平成13年8月28日(2001.8.28)

(51)Int.Cl.

A47K 3/074

識別記号

F I

A47K 3/074

テマート(参考)

審査請求 未請求 請求項の数9 OL (全7頁)

(21)出願番号 特願2000-43728(P2000-43728)

(22)出願日 平成12年2月22日(2000.2.22)

(71)出願人 598124962

細川 喜美子

京都府向日市寺戸町二枚田9-9

(71)出願人 598124973

有限会社アクションケイ

京都府京都市下京区中登寺栗田町1京都リ

サーチパーク4号館

(72)発明者 細川 喜美子

京都府向日市寺戸町二枚田9-9

(74)代理人 100109472

弁理士 森本 直之

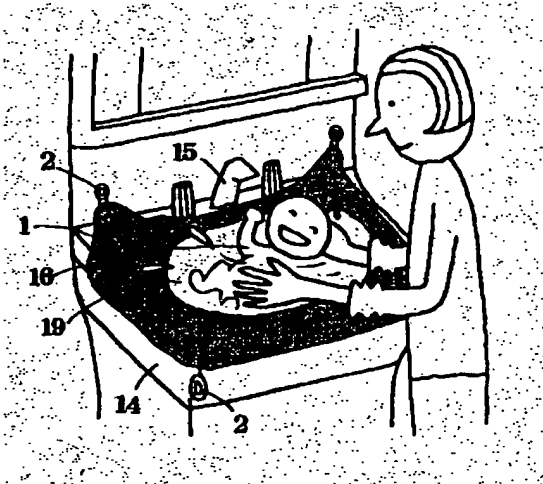
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 沐浴方法および沐浴湯水槽ならびにそれらに用いる沐浴シート

(57)【要約】

【課題】乳児等を沐浴させる作業が楽になり、しかも保管場所をとらない沐浴方法を提供する。

【解決手段】シンク14の凹部に沿って敷設しうる大きさのシート1を準備し、上記シート1をシンク凹部に敷設し、上記シート1によって形成された凹部19内に湯水を貯留させ、上記凹部19内の湯水によって沐浴させることにより、清潔で抵抗力の弱い乳児に良いうえ、沐浴させる高さが最適になり沐浴させる作業は立ったままできることから、作業の際の姿勢もそれほど前かがみにならずにすみ、格段に楽になる。また、排水の際には、シート1の端をめくって湯水をシンク内に捨てればよく、従来のように湯水の入った重い桶を傾けるような作業が不要で、作業が極めて楽になる。しかも、使用し終わったら、シート1を折りたたんで収納すればよいことから、保管の際の収納スペースをとらない。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 シンクの凹部に沿って敷設しうる大きさのシートを準備し、上記シートをシンクの凹部に敷設し、上記シートによって形成された凹部内に湯水を貯留させ、上記凹部内の湯水によって沐浴させることを特徴とする沐浴方法。

【請求項2】 シンクの凹部に沿って敷設しうる大きさのシートと、シンクの凹部に上記シートが敷設されて上記シートによって形成された凹部に沐浴用の湯水を貯留しうようになっていることを特徴とする沐浴湯水槽。

【請求項3】 上記シートが紙、不織布、樹脂フィルムの少なくともいずれかを基材としたものである請求項1または2記載の沐浴方法または沐浴湯水槽。

【請求項4】 上記シートのシンクの排水口に対応する部分に、排水用穴が穿設され、上記排水用穴が剥離可能のフィルムで水密状に覆われている請求項3記載の沐浴方法または沐浴湯水槽。

【請求項5】 上記シートが使い捨てである請求項3または4記載の沐浴方法または沐浴湯水槽。

【請求項6】 上記シートのシート面に、挽水加工が施されている請求項3～5のいずれか一項に記載の沐浴方法または沐浴湯水槽。

【請求項7】 上記シートに、シートがシンクの凹部に沿うようシートを折ることができる折れ線が設けられている請求項3～6のいずれか一項に記載の沐浴方法または沐浴湯水槽。

【請求項8】 上記シートの周縁部に、シンクの凹部周縁部に係止される係止部材が設けられている請求項3～7のいずれか一項に記載の沐浴方法または沐浴湯水槽。

【請求項9】 請求項3～8に記載の沐浴方法または沐浴湯水槽に用いられる沐浴シート。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、乳児やベット等を沐浴させる際に用いる沐浴方法および沐浴湯水槽に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来から、生後すぐの乳児やベット等を沐浴させる場合には、図9に示すような、プラスチック等が成形されてなり、上面に乳児ひとりがちょうど入る程度の凹部21が形成された沐浴用桶20が用いられている。この沐浴用桶20を用いて乳児を沐浴させる場合には、凹部21に湯水を汲み置き、この湯水を溜めた桶20を風呂場等の床に置き、桶20内の湯水に乳児を浸けて乳児の身体を洗い、沐浴させることが行われる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記沐浴用桶20では、湯水を桶20に汲み入れる際には、手桶等で湯水を汲み入れたり、蛇口にホースをつないで湯水を注入したりする必要がある。また、沐浴が終わった

後の湯水を捨てる際には、湯水の入った重い桶20を傾ける等の作業が必要である。このような作業には大きな力を要し、特に産後の女性にとっては大変である。また、桶20を床面に直接置いて乳児を抱きかかえながら沐浴させるため、乳児を洗うときの姿勢が前かがみになり、腰や背中に負担がかかり、作業が極めて大変である。しかも、プラスチックの成形品であるため、保管の際に広い収納場所が必要であるうえ、沐浴用桶20を使用するのは生後1ヶ月から1ヶ月半程度の短期間であることから、第一子で使われなくなってから第二子で使用するまで保管するのは、その間収納場所をとられ、極めて不便である。

【0004】また、病院等において、新生児等を沐浴させる際には、沐浴用桶20や洗面台等に湯水を汲み置いて沐浴させることが行われている。このとき、新生児は雑菌等に対する抵抗力が弱いので、一回使用するごとに沐浴用桶20や洗面台をきれいに消毒する必要がある。このため、ただでさえ看護婦の手が足りない病院で、新生児等を沐浴させるたびに煩雑な消毒の手間がかかっており、沐浴にかかる労力の低減が強く望まれている。

【0005】本発明は、このような事情に鑑みなされたもので、乳児等を沐浴させる作業が楽になり、しかも保管場所をとらない沐浴方法および沐浴湯水槽の提供を第1の目的とする。また、本発明は、乳児等を沐浴させる作業を軽減しうる沐浴方法および沐浴湯水槽ならびに沐浴シートの提供を第2の目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため、本発明の沐浴方法は、シンクの凹部に沿って敷設しうる大きさのシートを準備し、上記シートをシンクの凹部に敷設し、上記シートによって形成された凹部内に湯水を貯留させ、上記凹部内の湯水によって沐浴させることを要旨とする。

【0007】また、本発明の沐浴湯水槽は、シンクの凹部に沿って敷設しうる大きさのシートと、シンクの凹部に上記シートが敷設されて上記シートによって形成された凹部に沐浴用の湯水を貯留しうようになっていることを要旨とする。

【0008】また、本発明の沐浴シートは、請求項3～8に記載の沐浴方法または沐浴湯水槽に用いられる沐浴シートであることを要旨とする。

【0009】すなわち、本発明の沐浴方法は、シンクの凹部に沿って敷設しうる大きさのシートを準備し、上記シートをシンクの凹部に敷設し、上記シートによって形成された凹部内に湯水を貯留させ、上記凹部内の湯水によって沐浴させるようにする。また、本発明の沐浴湯水槽は、シンクの凹部に沿って敷設しうる大きさのシートと、シンクの凹部に上記シートが敷設されて上記シートによって形成された凹部に沐浴用の湯水を貯留しうよ

うになっている。

【0010】このため、湯水を汲み入れる際には、シンクに給水等する備え付けの給水口や給湯口から湯水を供給し、シートによって形成された凹部に湯水を貯留させればよい。そして、上記凹部の湯水に乳児を浸けて身体を洗い沐浴させることが行われる。このように、洗面や髭剃り等に使用された不潔な状態のシンクの凹部に直接湯水を溜めて沐浴させるのではなく、シートに形成された凹部に湯水を溜めて沐浴させることから、清潔で、抵抗力の弱い乳児に良い。また、沐浴させる高さが最適になり沐浴させる作業は立ったままでできることから、作業の際の姿勢もそれほど前かがみにならずに済み、従来に比べて格段に楽になる。また、排水の際には、シートの端をめくって湯水をシンク内に捨てればよく、従来のように湯水の入った重い桶を傾けるような作業が不要で、作業が極めて楽になる。しかも、使用し終わったら、シートを折りたたんで収納すればよいことから、保管の際の収納スペースをとらない。また、ペット等の動物を沐浴させた場合に、シンクが汚れない。

【0011】本発明の沐浴方法および沐浴湯水槽において、上記シートがゴムシートである場合には、シート自体が柔軟で伸縮性に富むため、シンクの凹部の形状に沿い、沐浴スペースが不必要に狭くならない。また、乳児等の肌を傷つけることもない。

【0012】本発明の沐浴方法および沐浴湯水槽において、上記シートが紙、不織布、樹脂フィルムの少なくともいずれかを基材としたものである場合には、シートが極めて安価になる。そして、例えば、シートを使い捨てにすることも可能となり、乳児等を沐浴させるたびにシンクを消毒する必要もなくなり、沐浴させる作業を大幅に軽減することができる。

【0013】本発明の沐浴方法および沐浴湯水槽において、上記シートのシンクの排水口に対応する部分に、排水用穴が穿設され、上記排水用穴が剥離可能なフィルムで水密状に覆われている場合には、使用後はフィルムを剥離して排水用穴を露呈させ、シンクの排水口から容易に排水することができる。したがって、沐浴後の汚れた湯水は排水口だけに流れ、シンクをほとんど汚染しないため、シンクを消毒する手間が省ける。

【0014】本発明の沐浴方法および沐浴湯水槽において、上記シートが使い捨てである場合には、一度沐浴に使用して汚染されたシートが再び使用されないことから、シート等を消毒する必要もなく、沐浴にかかる作業が軽減される。

【0015】本発明の沐浴方法および沐浴湯水槽において、上記シートのシート面に、撈水加工が施されている場合には、シートによって形成された凹部に貯留した湯水が漏れ難くなる。

【0016】本発明の沐浴方法および沐浴湯水槽において、上記シートに、シートがシンクの凹部に沿うようシ

ートを折ることができる折れ線が設けられている場合には、上記折れ線に沿ってシートを折り曲げるだけでシートがシンクの凹部にそうように形作られ、使い勝手が良く便利である。この場合において、上記折れ線が予め形成された折り目である場合には、シートをシンクの凹部に沿うように形作る作業が極めて容易になる。また、この場合において、シートが予め平板状に折りたたまれている場合には、折りたたまれた部分を引き起こすだけでシートがシンクの凹部にそうように形作られ、使い勝手が良く便利である。

【0017】本発明の沐浴方法および沐浴湯水槽において、上記シートの周縁部に、シンクの凹部周縁部に係止される係止部材が設けられている場合には、シンクに敷設したシートがずれ難くなり、使い勝手がよくなる。

【0018】また、本発明の沐浴シートは、請求項3～8に記載の沐浴方法または沐浴湯水槽に用いられる沐浴シートである。このため、シートが極めて安価になる。そして、例えば、シートを使い捨てにすることも可能となり、乳児等を沐浴させるたびにシンクを消毒する必要もなくなり、沐浴させる作業を大幅に軽減することができる。

【0019】なお、本発明において「シンク」とは、台所の流し台だけでなく、洗面台等、水道等の蛇口からの湯水を受ける貯水槽であれば、各種のものを含む趣旨である。また、本発明によって沐浴させる対象は、乳児に限らずペット等の動物も含む趣旨である。

【0020】

【発明の実施の形態】つぎに、本発明の実施の形態を詳しく説明する。

【0021】図1は、本発明に用いるシート1の一例を示す。このシート1は、略長方形に形成されたゴム製のシート1の四隅および奥側（図1における上側）の二箇所に吸盤（係止部材）2が取り付けられて構成されている。13は、四隅の吸盤が取り付けられるコードである。

【0022】上記シート1の角部は、三角形部分が折り返され、この折り返し部にコード挿通穴が穿設され、四隅のコード挿通穴にコード13が挿通され、このコード13の先端部にそれぞれ吸盤2が取り付けられている。上記コード13の長さは、奥側の2箇所よりも手前側（図1において下側）の2箇所のものの方が長く設定されている。また、上記シート1には、その下面に、奥側の一辺に沿って2個の吸盤2が取り付けられている。

【0023】上記シート1を形成するゴム材料としては、特に限定するものではなく、各種のゴム材料が用いられる。例えば、天然ゴム、ポリイソブレンゴム、ポリブタジエンゴム、アルフィンゴム、スチレンブタジエンゴム、ハイスチレンゴム、エチレン-プロピレンゴム、クロロスルホン化ポリエチレンゴム、ブチルゴム、クロロブレンゴム、アクリロニトリルブタジエンゴム、多硫

化系ゴム、アクリルゴム、けい素ゴム、フッ素ゴム、シリコンゴム、エピクロロヒドリンゴム、ウレタンゴム等各種のものがあげられる。これらのなかでも、特に、安価で入手しやすく、柔軟性・伸縮性に優れ、しかも外科手術用手袋等にも用いられて安全性にも優れていることから、天然ゴムが最適である。なお、この実施の形態では、上記シート1の幅寸法は約1000mm、奥行き寸法は約750mm、厚みは約0.3mmであるが、これに限定するものではない。

【0024】上記シートを用い、本発明の沐浴方法は、例えば、つぎのようにして行われる。すなわち、まず、図2に示すように、洗面台14と上記洗面台14のシンク凹部18に沿って敷設しうる大きさの上記シート1を準備する。ついで、図3に示すように、シート1の奥側の2箇所の角部に取り付けられた吸盤2および奥側の一辺に沿って取り付けられた吸盤2を、洗面台14のシンク凹部18に沿って吸着させ、上記シート1をシンク凹部18に敷設する。つぎに、シート1の手前側の2箇所の角部に取り付けられた吸盤2を洗面台14の前面に吸着させるとともに、手前側の一辺を洗面台14の前面に垂らす。この状態で、本発明の沐浴湯水槽が得られる。

【0025】つぎに、図4に示すように、洗面台14に備え付けの給湯口や給水口15から湯水を供給し、シート1によって形成された凹部19に、湯水を貯留させる。そして、図5に示すように、上記凹部19内の沐浴用の湯水によって乳児16等を沐浴させることが行われる。

【0026】このように、洗面台14の給水口や給湯口から湯水を供給して溜めればよいので、作業が極めて楽である。そして、上記凹部19に溜められた湯水に乳児を浸けて身体を洗い、沐浴させることが行われる。このとき、シート1がゴムからなるため、シート1が柔軟で伸縮性に富み、シンク凹部18の形状に沿い、沐浴スペースが不必要に狭くならない。乳児の肌を傷つけることもない。また、沐浴させる作業は立ったままできることから、作業の際の姿勢もさほど前かがみにならずに済む。

【0027】沐浴が終了したのちは、シート1の手前側の2箇所の吸盤2を取りはずし、シート1の手前側の一辺を水中に埋没させて一気に湯水をシンク凹部18内に捨てることを行われる。このように、使い終わった湯水を捨てる作業も非常に楽である。そして、排水が終了したのちは、シート1を折りたたみ、コンパクトにして収納すればよい。

【0028】このように、上記沐浴方法および沐浴湯水槽では、湯水を汲み入れる際には、洗面台14の給湯口や給水口15から湯水を供給してシート1によって形成された凹部19内に湯水を貯留させ、その湯水に乳児を浸けて沐浴させればよい。このように、洗面や髭剃り等に使用された不潔な状態のシンク凹部18に直接湯

水を溜めて沐浴させるのではなく、シート1に形成された凹部19に湯水を溜めて沐浴させることから、清潔で、抵抗力の弱い乳児に良い。そして、沐浴させる作業は立ったままできることから、作業の際の姿勢もさほど前かがみにならずに済み、従来に比べて格段に楽になる。また、排水の際も、従来のように湯水の入った重い桶を傾けるような作業が不要で、作業が極めて楽になる。しかも、使用し終わったら、シート1を折りたたんで収納すればよいことから、保管の際の収納スペースをとらない。安価である。

【0029】なお、上記実施の形態では、シート1をゴムで形成したが、これに限定するものではなく、ポリエチレン、ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニリデン、ポリビニルアルコール、ポリプロピレン、ポリエステル、ポリカーボネート、ナイロン、ポリスチレン、エチレン酢酸ビニル共重合体、エチレン酢酸ビニルアルコール共重合体、アイオノマー等の樹脂材料から形成してもよい。

【0030】また、上記実施の形態では、シート1の四隅に三角形の折り曲げ部を形成させて補強するようにしたが、これに限定するものではなく、ゴムシート片や補強版を接着剤等で貼り付けたり、熱融着させる等してもよい。さらに、この補強部分の形状も三角形に限定するものではなく、円形や四角形等各種の形状にすることができる。

【0031】図6は、本発明に用いる沐浴シート3の第2例を示す。この沐浴シート3は、紙、不織布、樹脂フィルム、の少なくともいずれかを基材としてなるものである。

【0032】上記沐浴シート3は、長方形に形成され、中央付近のシンク凹部18の排水口に対応する部分に、排水用穴4が穿設され、この排水用穴4が剥離可能なフィルム5で水密状に覆われている。6はフィルム5を剥離する際に手指で把持する舌片である。

【0033】上記沐浴シート3は、前後左右の4辺より内側寄り部に、上記4辺と平行な谷折り目7が形成されている。また、各角の部分で、上記谷折り目7の交点から沐浴シート3の角に向かって延びる谷折り目11と、上記交点から前後方向（図示の上下方向）に延びる谷折り目10と、上記交点から左右方向に伸びる山折り目12とが形成されている。これにより、上記谷折り目7で囲まれた部分が、底面8になり、上記谷折り目7より外側の部分が側面9になる。そして、上記底面8の四方に側面9が立ち上がり、沐浴シート3がシンク凹部18に沿うように形作られるようになっている。図において、22はシンク凹部18に沿うように形作られた沐浴シート3の形状を保持する保持テープである。

【0034】また、上記沐浴シートは、前後の側面9に、上記交点から45°の方向に延びる山折り目17が形成されている。これにより、シンク凹部18に沿うように形作られた沐浴シート3が、図7に示すように、底

面8の大きさに平板状に折りたたまれるようになってい  
る。図6および図7において、23は沐浴シート3をシ  
ンク凹部18に固定する両面テープ（係止部材）であ  
る。

【0035】上記沐浴シート3は、紙および／または不  
織布を基材としてなるものであるが、そのシート面に、  
樹脂フィルムをラミネートする等の防水加工を施すこ  
とが望ましい。

【0036】上記沐浴シート3を用いて沐浴を行う場合  
には、まず、図7に示す折りたたまれた状態の沐浴シ  
ート3を、図8に示すように、左右の両側面9を引き起  
すとともに、前後の両側面9を引き起こすことにより、  
台所等のシンク凹部18に沿う略箱状に形作る。つい  
で、上記沐浴シート3をシンク凹部18内に挿入し、必  
要に応じて両面テープ23の剥離シートを剥離して側面  
9をシンク14に固定する。そして、上記沐浴シート3  
によって形成された凹部19に湯水を貯留して乳児等を  
沐浴させることが行われる。

【0037】そして、沐浴が終了すると、フィルム5の  
舌片6を手指で把持し、フィルム5を剥離することによ  
り、排水用穴4ならびにシンク14の排水口から沐浴後  
の湯水が排水される。使用が終了した沐浴シート3は、  
そのまま使い捨てることができる。

【0038】上記沐浴シート3によれば、沐浴シート3  
自体が極めて安価になり、沐浴シート3を使い捨てにす  
ることが可能となり、乳児等を沐浴させるたびにシンク  
14や沐浴シート3を消毒する必要もなくなり、沐浴さ  
せる作業を軽減することができる。また、沐浴後の汚れ  
た湯水は排水口だけに流れ、シンク14をほとんど汚染  
しないため、シンク14を消毒する手間も省ける。さら  
に、上記沐浴シート3では、沐浴シート3がシンク凹部  
18に沿うよう予め折り目が設けられているため、沐浴  
シート3をシンク凹部18に沿うように形作る作業が極  
めて容易である。それ以外は、図1～図4に示すものと  
同様の作用効果を奏する。

【0039】上記実施の形態では、沐浴シート3に予め  
折り目を設けたが、これに限定するものではなく、折り  
目ではなく折れ線でも良いし、折り目や折れ線を全く設  
けないようにすることもできる。

【0040】なお、上記各実施の形態では、係止部材と  
して吸盤2および両面テープ23を使用したが、これに  
限定するものではなく、フック、クリップ、マグネッ  
ト、粘着シート、粘着剤、マジックテープ等、洗面台や  
流し台のシンク14の周囲にシート1、3の周辺部を一  
時的に固定しうるものであれば何を用いてもよい。

【0041】また、上記各実施の形態では、シート1、  
3を長方形に形成した例を示したが、これに限定するも  
のではなく、楕円形、円形、正方形その他多角形等、各  
種の形状に形成することができる。

【0042】

【発明の効果】以上のように、本発明の沐浴方法および  
沐浴湯水槽によれば、湯水を汲み入れる際には、シンク  
に給水等する備え付けの給水口や給湯口から湯水を供給  
し、シートによって形成された凹部内に湯水を貯留させ  
ればよい。そして、上記凹部内の湯水に乳児を浸けて身  
体を洗い沐浴させることが行われる。このように、洗面  
や髭剃り等に使用された不潔な状態のシンクの凹部に直  
接湯水を溜めて沐浴させるのではなく、シートに形成さ  
れた凹部に湯水を溜めて沐浴させることから、清潔で、  
抵抗力の弱い乳児に良い。また、沐浴させる高さが最適  
になり沐浴させる作業は立ったままできることから、作  
業の際の姿勢もそれほど前かがみにならずにすみ、従来  
に比べて格段に楽になる。また、排水の際には、シート  
の端をめぐって湯水をシンク内に捨てればよく、従来の  
ように湯水の入った重い桶を傾けるような作業が不要  
で、作業が極めて楽になる。しかも、使用し終わったら  
、シートを折りたたんで収納すればよいことから、保  
管の際の収納スペースをとらない。また、ペット等の動  
物を沐浴させた場合に、シンクが汚れない。

【0043】また、本発明の沐浴シートによれば、シー  
トが極めて安価になる。そして、例えば、シートを使い  
捨てにすることも可能となり、乳児等を沐浴させるた  
びにシンクを消毒する必要もなくなり、沐浴させる作業  
を軽減することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に用いる沐浴シートの一例を示す平面図  
である。

【図2】本発明の沐浴方法を示す説明図である。

【図3】上記沐浴方法を示す説明図である。

【図4】上記沐浴方法を示す説明図である。

【図5】上記沐浴方法を示す説明図である。

【図6】本発明の沐浴シートの一実施の形態を示す平面  
図である。

【図7】上記沐浴シートを折りたたんだ図である。

【図8】上記沐浴シートの斜視図である。

【図9】従来の沐浴用桶を示す斜視図である。

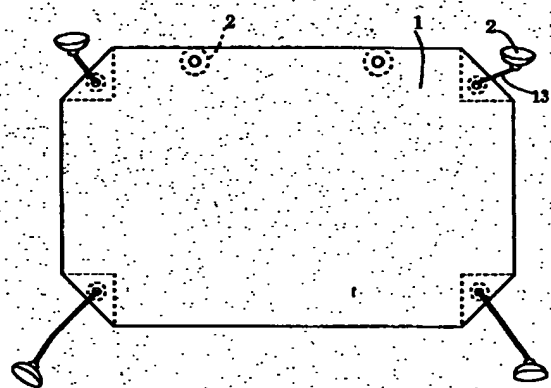
【符号の説明】

1 シート

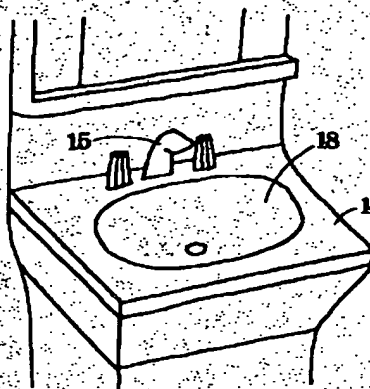
14 シンク

19 凹部

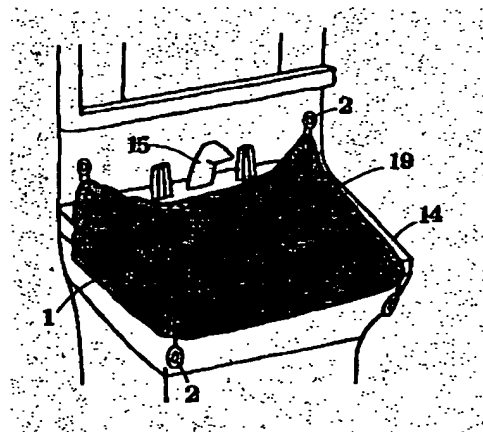
【図1】



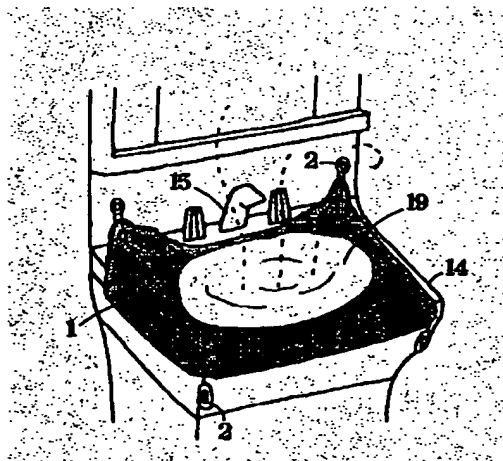
【図2】



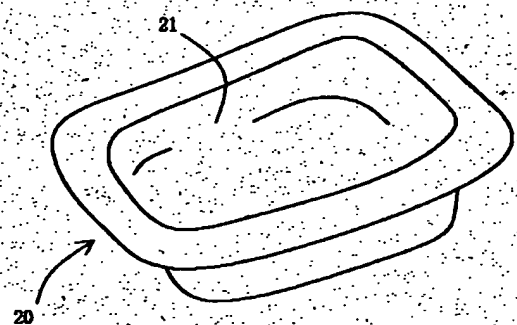
【図3】



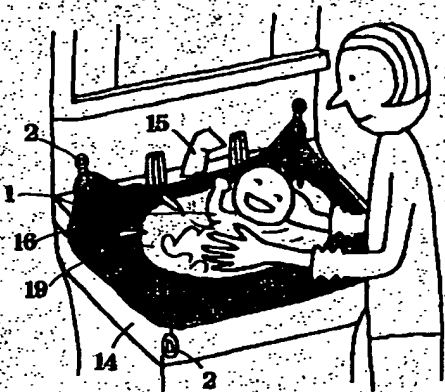
【図4】



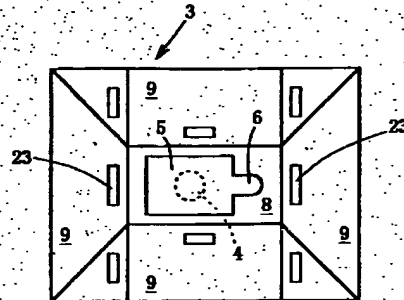
【図9】



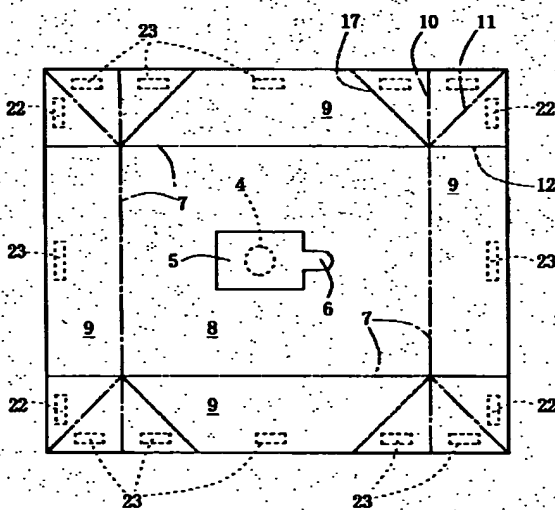
【図5】



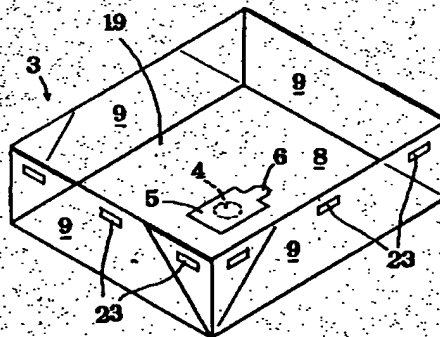
【図7】



【図6】



【図8】



フロントページの続き

(72)発明者 阪部 智子  
 京都府京都市下京区中堂寺栗田町1 京都リ  
 サーチパーク4号館 有限会社アクション  
 ケイ内